

しめんとしたが、越後は之を辭した。當時加賀藩の兵は堺町御門に在つたが、廿八日重ねて伏見出兵の令を得たるも従はなかつた。蓋し幕府は同盟相對時せしめようとしたのである。

(四)慶寧の退京―是より先長藩はその請ふ所許されなかつたから、將に兵を動かさんとしたに、我が不破富太郎・大野木仲三郎等も之を賛し、因幡・對馬兩藩と共に薩摩・會津・桑名を挾撃せんことを謀り、且つ長藩が若し鸞輿を動座せしめることあらば、之を加賀藩領近江今津に迎へ奉ることを約した。しかも老臣奥村榮通の如きは、慶寧が長藩の爲に周旋すること既に盡くせるを以て、今は斷然之と絶つて、朝命を奉じ藩屏の任を致すを可なりとし、指揮を在藩の齊奏に請うた。是を以て慶寧は幕府に訴へて、長藩の求むる所數件の中その一を許して彼が面目を保たしめんとし、一面長藩に勸めて朝旨に従ひ兵を撤すべきことを忠告したが共に成らず、七月十七日朝議遂に長藩擊攘の命を下したので、長藩は十九日拂曉君側を廓清するを名とし、進んで禁闕を侵した。慶寧乃ち津田玄蕃正邦に代つて聖體の安を奉候せしめ、己は疾病滯京に堪へずとの届書を呈出したるまゝ巳刻を以て歸國の途に就いた。因つて榮通は慶寧の出發を建仁寺に送り、直に禁闕に赴いて兵を部署したが、この時は既に長藩兵の潰走した後であつた。

は、別に齊奏の命を奉じ、慶寧を遂に要してその守衛の任を盡くさずして退京したるを責め、再び之を入洛せしめる任務を帯びて途に上つたが、廿七日慶寧の海津にあるに會して命を傳へた。しかも齊奏は、慶寧をして再び上洛せしめる如きは、年壯氣銳の慶寧が到底肯せざる所なるべく、又假令強ひて之を爲さしむるも、藩の面目を維持する爲に何等の効果なきを以て、慶寧に謹慎を命じて國に就くを許し、從臣の主班にある者を自及せしめて責任を負はしめ、然る後自ら江戸に赴きて陳謝すべしとなし、更に前田土佐守直信・不破彦三爲儀を遣はして命を傳へしめた。是を以て二人は八月八日海津に着して慶寧に報じ、九日別に内旨を家老松平大貳に諭したが、十一日大貳は慶寧の發輿を送つた後、旅宿正行院に歸つて自及した。十八日慶寧歸藩して金谷御殿に幽居し、而して事變に關係した諸士の刑は十月十八日以後に宣告せられた。その主なるものは不破富太郎・千秋順之助・大野木仲三郎・青木新三郎(以上切腹)、大野木源藏・堀四郎左衛門・久徳傳兵衛(以上流刑)、福岡惣助(生嗣)、小川幸三(刎首)、野口弁吉(永世主人預入獄)、高木守衛・淺野屋佐平・駒井躰庵・谷村直(以上永牢)、福岡文平・岡野判兵衛(以上閉門)、石黒圭三郎・岡野外龜四郎(以上公事場内禁錮)、行山康左衛門・瀬尾餘一(以上逼塞)等であつた。

ゲンジユウイン 幻住院 加賀藩主第五代前田綱紀の子利清の法號。詳しくは幻住院一電淨光童子。

ケンジュジ 猷珠寺 金澤下百々女木町に在つて、もと金龍山、後黃龍山と號した。神谷信濃守守孝の室は中川武藏守光重の女で、後に猷珠院と稱した。猷珠院の母は前田利家の女蕭姬であつたから、利常は化粧田四百石を興へたのであつたが、猷珠院歿後その女にして横山式部長治の室であつた海元院に譲らしめた。依つて慶安四年海元院は母の歸依僧遠山を請じて一寺を建立したのが猷珠寺で、臨濟宗妙心寺派であつた。寛文七年遠山寂し、月坡が晋山して曹洞宗に改め、月坡の天徳院に移住して後無住になつたが、檀那横山氏從は寛文十二年明僧高泉を請じ、明法山と稱し、高泉の既に退院の後元祿末年妙心寺の喬山來つて再興し、再び臨濟宗に復した。故に猷珠寺では喬山を第二代として、月坡・高泉は世代に入れない。

ゲンジユン 玄惺 ↓シンケゲンジユン 眞化玄惺。

ケンジヨウ 見定 石川郡岸川庄に屬する部落。

ゲンシヨウ 源照 ↓チンザンゲンシヨウ 珍山源照。

ケンシヨウイン 顯照院 大聖寺藩主第五代前田利道の法號。詳しくは顯照院徹巖義心大居士。

ケンシヨウイン 顯證院 石川郡廣岡に在つて、眞言宗に屬した。山號は廣岡山。一時廢絶したのを、寛永十二年再興したといふ。當寺は廣岡山王社の別當であつたが、明治元年神佛混淆禁止の後復歸して平岡主計と稱し、佛像は之を廣岡放生寺に移した。

ケンシヨウイン 源性院 金澤八坂永福寺の塔頭であつた。慶安元年永福寺十代州安和尙の弟子慶察長老の建立であつたが、明治六年無賴無住の寺院廢止の令によつて破却せられた。

ケンシヨウジ 堅正寺 金澤野町に在つて、眞宗東派に屬する。

ケンシヨウジ 顯正寺 金澤卯辰に在つて、惠日山と號し、天台宗に屬した。僧盛祐八坂に創立し、慶長十七年卯辰西養寺境内に移轉したのであつたが、今は存せぬ。

ケンシヨウジ 建勝寺 江沼郡山代にあつた。江沼志稿に、建勝寺の廢址はこの村領の上敷中にあると記する。

ケンシヨウジ 建聖寺 能美郡小松寺町にあつて、曹洞宗に屬する。山號は榮龍山。石川郡大乘寺の十三代雪窓祐補初め本寺を寺井村に建て、隱栖したが、天正四年雪窓示寂し、龍巖嗣ぎ、八年村上頼勝の小松に來るに及び、城北に遷してその母の位牌所とし、寛永中前田利常小松城に入つて、寺地を收め今の所に遷した。

ゲンシヨウジ 源正寺 鳳至郡波並に在つて、眞宗東派に屬する。

ケンシヨウウハン 見性宗般 京都紫野臨濟宗大徳寺の住持。嘉永元年十一月十七日能美郡小松の泥町に生まれ、幼名を房壽と稱した。父は延壽寺の住職で、當山派の修験に屬し、權大僧都泉養院散壽と號したが、明治維新の際神職となり、名を奥田友之進と改めた。宗般は幼時習學所で漢籍を學び、安政の